

さくら

題字 足立区長 近藤 やよい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 中田 貢弘
編集 広報部会
発行日 2013年11月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870

目次

会長協議会視察研修	2
全員研修会・会長協議会	3
子ども支援センターげんき 部会活動報告	4
団体名シリーズ 包括支援センターから見た 絆づくりシリーズ2	5
相馬市行動記録4・5	6
座談会 広報部会退任者に聞く	7
終末期医療シリーズ2	8



足立入谷小5年 横山穂奏 作



会長会の視察研修会

第一合同会長

柳川 峯子

今回の視察研修では、相馬市社協会長只野裕一様から伺った、被災後の民生児童委員活動のことがとても印象に残りました。被災直後から要援護者の安否確認を開始し情報収集を行ったこと。応急仮設住宅入居者を見守り訪問し、乳幼児、障がい者、高齢者それぞれに必要な情報提供を行ったことなど、自分達も被害を受けながらも一生懸命活動されたとのこと、また、足立区の職員が日夜活動を続けられていること等に深い感銘を受けました。視察研修で学んだことをまとめてみました。

- ①災害対策本部初動体制の大切さ
- ②住民同士のつながり強化の大切さ
- ③帰宅困難者対策
- ④避難所機能の強化
- ⑤各関係機関等との連携強化

相馬市へ訪問し、「あの日を忘れない」と改めて心に誓いました。



会長協議会研修旅行

第三合同会長

中山 佳子

今年度の会長協議会視察研修は、相馬市を訪問しました。東日本大震災から二年三ヶ月が経っていましたが、常磐道は全線開通しておらず、東北道から迂回したため大変時間がかかりました。

相馬市の社協会長さんをはじめ、関係職員の方に当時の様子やその後の復興に向けてのお話を伺いました。その中に足立区の職員がいらっしゃったことに驚きました。そして嬉しく、誇りに思いました。

体験された皆様のお話は生々しく、思わず涙してしまいました。自分がその場にいたら、どう行動が出来たでしょうか。ささやかな義援金をお渡しして、その場を後にしました。



会長協議会視察研修 6/4~6/5 相馬市民協との交流



今年度は、地区会長20名、部会長2名、OB会メンバー3名、行政職員10名が参加して、福島県相馬市社会福祉協議会を訪問しました。相馬市民協副会長渡邊昂氏、社協会長只野裕一氏、社協事務局長今野大氏から被災当時の民生委員活動についてお話を伺いました。

研修会場の相馬市総合福祉センターは、1千人余の方が避難生活をされた場所です。只野氏から、原発事故により物流が途絶え、わずかに残ったお米や缶詰を分け合い、最後には飴を口にふくんで空腹をしのいだという壮絶な体験を伺い、「胸がつまり、涙が出た」と話す参加者の方も



おられました。被災後も民生委員は、避難所や仮設住宅を回っての安否確認と見守り活動を行っているとのこ

と。仮設住宅に移られた方についても、元の地域の民生委員が引き続き担当して訪問されているお話を伺い、相馬市の皆様の思いやりを強く感じました。

質疑応答での被災者ニーズの把握方法についての質問には、「普段から地域のことを熟知していることが力になった」、「土地の言葉を話す人だから被災者も本音で話せる」という話が心に残りました。足立区の民生・児童委員も災害時は要援護者の安否確認を行います。どこにどのような方が暮らしているかを、日常から把握しておくことが、備えになると痛感しました。

足立区は、相馬市と災害協定を締結しています。民生・児童委員協議会も、今年の民生・児童委員PR週間においても、物産販売・募金を通じて相馬市を応援しました。今回の訪問では、募金など25万6千円を復興支援金として、民生・児童委員協議会から相馬市社会福祉協議会へ贈呈いたしましたことをご報告して、結びとさせていただきます。

(第2合同会長 吉田幸雄 記)

相馬市派遣職員に聴く

会長協議会の皆さん、ようこそ相馬市にお越しくださいました。

私が派遣を希望したのは、被災地のために「何かをしたい」という一念からです。平成24年度から相馬市へ派遣され、2年目に入りました。

相馬市での仕事は、施設復旧全般です。営繕の仕事ですが、水産関連施設の復旧、復興も担当しているので、相馬港湾建設事務所や水産試験場等とのやり取りがあります。福島県が実施している堤防や護岸の復旧工事と調整しながらの仕事になります。なかなか手間がかかりますが、とてもやりがいがあります。

さて、被災者の居所は、避難所⇒仮設住宅⇒災害公営住宅と移ります。避難所では、生存確認が急務です。相馬市では被災者生活支援金制度を急遽設け、被災直後5日目の3月16日から本人に手渡しをすることで、速やかに確認が取れました。仮設住宅では、従来のコ

ミュニティを尊重し、一定のグループごとの入居に配慮しました。特に独居の高齢者に対しては、“御用聞き”を兼ねた日常の安否確認をしています。災害公営住宅では、新たなコミュニティづくりが課題になると思います。

今回の視察研修をきっかけにして相馬市の民協と交流を深めていただき、足立区の有事の時にどう行動するかを、検討・検証していただきたいと願っています。

(相馬市建設部建築課 宮口利則 記)



全員研修会後の会長協議会 夏季懇親会



8月8日、足立区民生・児童委員協議会全員研修会終了後、フラルガーデン東京に会場を移し、会長協議会主催の夏期懇親会及び都民連幹部との懇親会が開催されました。参加者は東京都民生児童委員連合会からは福田会長をはじめ26名、消防関係では東京消防庁大江消防総監をはじめ8名、区議会からは馬場議長をはじめ5名、行政からは近藤足立区長、

西野福祉部長をはじめ31名、足立区民生・児童委員協議会からは中田連合会長をはじめ29名（OBを含む）他で計99名のもと開催されました。

主催者を代表して中田連合会長より、全員研修会に続き懇親会に出席をいただいたお礼と感謝の言葉が述べられました。

⇒



暦の上では立秋となりましたが、猛暑となった8月8日に西新井文化ホールにて、足

立区 558 名の民生・児童委員が一堂に会する全員研修会が行われました。

オープニングは東京消防庁音楽隊による演奏が行われました。軽快なリズムに乗せた音楽とカラーガーズ隊の演技に、会場は和やかな雰囲気になりました。

飯塚第五合同会長の司会による式典は、国歌「君が代」斉唱、山本第六合同会長による信条朗読、宮崎会長職務代理の開会の挨拶、中田連合会長による主催者挨拶がありました。

来賓を代表して近藤区長、馬場区議会議長、福田東京都民生児童委員連合会会長、笠原東京都福祉保健局地域福祉推進課長より、あたたかいご挨拶をいただきました。

近藤区長からは、「孤立ゼロプロジェクト」を推し進めていくとの思いが伝わり、私たちへの期待の大きさ

を改めて知ることができました。

講演会は「東京消防庁の震災への取り組み」として、東京消防庁参事兼防災安全課長である田島氏と、消防救助機動部隊統括隊長である宮本氏による講演を聞きました。

地震対策などに備えて、町会や自治会などを通じた地域の連携の重要性や、東日本大震災でのハイパーレスキュー隊の活躍の様子を聞いて、防災に取り組むうえで、日頃からの地域の交流が災害時に活かされたことを知りました。

最後に民生委員の歌「花咲く郷土」を斉唱し、吉田第二合同会長の挨拶で会を閉じました。

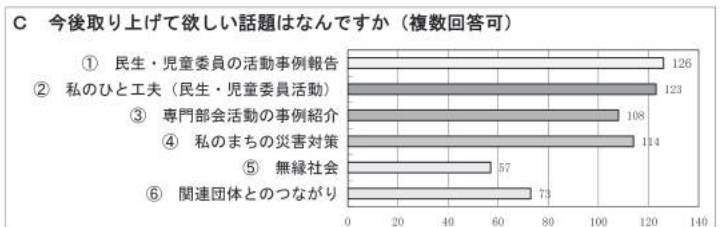
地域の結びつきを深めていくうえでも、私たちのより一層の積極的な活動が、これからも大切なものと認識した研修会でした。 (14 地区 阿部美代子 記)



全員研修 さくら アンケート 結果

もしあなたが「さくら」の編集長なら

- 東日本大震災を忘れぬよう記事を書ける。
- 福祉活動において、常に新しいニュースを書ける。
- 活動情報等の写真を多く取り入れる。
- 全体の活動報告だけでなく、個々の活動報告・問題点を書ける。
- 民生委員の活動状況を地域別に掲載したら他地区の委員さんの励みになるのではと思う。
- 皆で話し合い、楽しく手にとって目を通したくなるような、紙面作りをしたいと思います。



① 全体の印象は

良い	88	24.3%	普通	112	30.9%
やや良い	157	43.4%	やや悪い	3	0.8%
			悪い	1	0.3%

⇒都民連大谷副会長は「足立区民生・児童委員協議会の活動が大変充実していて感銘を受けました。また、PR 週間では他区に比較にならないくらいの集客であったと認識しています。これは足立区民協の意識の高さであろうと思います。このような素晴らしい活動を都民連にフィードバックをしてもらい、東京都民生・児童委員のレベルアップに寄与してほしいと思ます」と挨拶をされました。

挨拶終了後、どなたかの携帯電話で緊急地震速報を受信し、一時会場内に緊張が走りましたが、誤報で何事もなく会は進行しました。限られたスペースですの



で、ご挨拶全てを掲載は出来ませんが、お言葉をいただいた皆様が足立区の民生・児童委員は大変素晴らしいと語られておりました。このようなお褒めの言葉をいただけたのは、中田連合会長を中心とした足立区民協が一丸となって活動している表れだと思います。 (8 地区会長 田中榮一 記)



「こども支援センターげんき」職員と主任児童委員部会との意見交換

こども家庭支援センター・教育相談センターが4月に統合、足立区に子育ての相談窓口として「こども支援センターげんき」が誕生しました。今後の重要な連携行政機関との考えのもと、主任児童委員部会では、6月18日げんき職員との意見交換会を実施しました。部会には40名の主任児童委員が参加しました。



初めに、境所長からセンターの事業概要と中学校における別室登校支援事業の説明がありました。「別室での寄り添い・学

習支援をとおして段階的に学校・学級復帰へつなげていく」というものです。

ひきこもり・不登校の中学生と地域において生活をともにする我々主任児童委員が、区民のためにどう行政機関とのパイプ役をはたせるかを改めて考える機会になりました。「学校には行きたいが行けない」子どもに対し、適切な教育環境を提供することをとおして、児童福祉の底辺を支えていければと思いました。

「こども支援センターげんき」と主任児童委員部会は今後とも継続した情報交換会を開催していきます。

(部会長 小宮謙治 記)

子育て支援研究部会

子育て支援研究部会の活動テーマは、「子育て支援の現状を知る」です。特に今年度は、児童虐待について理解を深めることに重点をおいて活動してきました。そのために、まず足立区の状況を把握するため、子ども家庭支援センターの職員を講師に招き、足立区の児童虐待の現状と対策について学びました。

足立区での児童虐待の相談件数は年々増加しているそうです。虐待が起きる背景には、親や子ども、親子間などの様々な問題が絡み合っています。体に不審なあざや傷がある、いつも同じ服を着ているなど、虐待が疑われる場合には、すぐに関係機関につないで対応することの重要性を学びました。

また、主任児童委員部会・児童福祉研究部会の3部

会の共催で、越谷心理支援センターから秋山邦久所長をお招きして、「虐待の早期発見と予防について」の講演を聞きました。

虐待を受けてきた子どもは周囲の大人を信用できず、試すような行動が見受けられるそうです。また、人間関係を築いていく習慣が身につけていないとのこと。民生・児童委員は虐待を受けているこどもの立場を理解して、年齢に応じた心の発達を支援していくことが大切だと感じました。

(部会長 柘孝子 記)



児童福祉研究部会

児童福祉研究部会では3年間の統一活動テーマを検討し、「こどものこころの問題を考える」こととしました。とりわけ「児童虐待」について学ぶことにしました。

そのため、「子どもとその家族のサポート」を行っている越谷心理支援センターから、秋山所長をはじめ講師の方をお招きして、子どもとのかかわりや虐待についての講義を聞きました。



その中で、子ども達を取り巻く現状や社会背景、現代の子ども達が抱えるストレスなど、民生委員として必要な知識や出来ることを学んできました。また、褒め方や目線の合わせ方等、子どもへの関

わり方の実践的なスキルアップやワークショップを行い、具体的なアドバイスもいただきました。また、保護者に対する対応の重要性を学びました。

24年度には、主任児童委員部会、子育て支援研究部会と合同で児童虐待に関する講演会を2回開催し、虐待の早期発見や予防などについて、秋山所長の講義がありました。

さらに、虐待された経験のある子ども達の、その後の生活について学ぶために、今年の6月に児童養護施設クリスマスヴィレッジを視察しました。

皆さんが子どもの虐待の問題に向き合う時に、少しでもお役に立てる情報を提示できればと考えております。

(部会長 高橋八郎 記)



団体名シリーズ 地域のちから推進部 絆づくり

足立区孤立ゼロプロジェクトにご協力をお願いします！
『孤立しない、させない地域社会』を目指して、1月から始まった「孤立ゼロプロジェクト」。プロジェクトは、「介護保険サービスを利用していない、70歳以上の単身者と75歳以上の方のみの世帯」を対象に、①調査活動 ②調査の結果、孤立のおそれがあると判断された方へ定期的に訪問する寄り添い支援活動 ③地域のイベントやサロン活動などを紹介し、参加を促す活動という流れで行われます。



既に区内36の町会・自治会を先行モデルとして、町会・自治会と担当民生委員の皆様による調査が行われました。ご協力いただいた民生委員の皆様には厚く御礼申し上げます。

調査は今後、各地域で順次拡大してまいりますので、民生委員の皆様のご更なるご支援をよろしくお願いいたします。

そして、区民の皆様へお願いします。

『孤立ゼロプロジェクトに是非、“あなたのちから”を貸してください。』

1週間に1回10分程度、あるいは2週間に1回でも結構です。孤立しがちな方々へ、ちょっと訪問してお声をかける寄り添い支援活動に、皆さんのちからを貸していただけませんか？ 一人の少しずつの『ちから』が、『地域のちから』になり、『あだちのちから』になります。ご協力いただける方は、足立区絆づくり担当課(3880-5184)、最寄の地域包括支援センターへご連絡ください。多くの皆様のご協力、ご参加をお待ちしています！

(絆づくり担当課長 上遠野葉子 記)

「絆づくり」シリーズ2 花畑団地「孤独死防止」の取り組み

花畑団地における「絆づくり・孤立ゼロプロジェクト」の取り組みは、団地自治会長を中心にあんしん連絡員、UR機構担当者、地域包括支援センター、そしてわれわれ民生・児童委員により行うこととなりました。

基本的には、団地で日頃から住民と接触の多いあんしん連絡員の方々が訪問、聞き取り調査等を行いました。ご本人の同意を得たうえで聞き取りを行い、不在の場合再訪問いたしました。調査対象者数に対し、同意を得られたものは、約12%でした。

調査は、快く答えてくださる方がいる反面、ドアも開けてくれない方もおり、様々です。今後このように閉じこもった方々をどのように見守るかが課題になると思います。

花畑団地では数年前に孤独死があり、新聞で取り上

げられ問題になってから、「孤独死ゼロ」を目指し活動しています。自治会長を始め、あんしん連絡員の日常的な見守り活動、UR機構による引きこもり防止のための各種取り組みが行われています。そして、地域包括支援センターや民生・児童委員との連携により高齢者だけでなく、子ども、若い世代が共に孤独や虐待を無くし、安心して明るく生活できる団地作りのため頑張っています。

(花畑地区 中崎幸子 記)



舎人小2年 わたなべあやね

地域包括支援センターから見た民生・児童委員

地域包括支援センターさのは、足立区内の地域包括支援センターの中で最も高齢者数が多く、現在は1万人を超えています。さらに、高齢化率も急速に伸びており、寄せられる相談の件数は年々増加しています。

相談内容としては、虐待・経済的困難・多問題家族・セルフネグレクト等の支援が困難なケースが目立ちます。公的なサービスだけでなく、民生・児童委員をはじめとした地域の皆様と連携して支援していかねばならないことも多くなっています。

民生・児童委員の皆様は、日頃から多くの地域の情報を把握されているため、地域包括支援センターでは情報の少ない高齢者についても事前にご相談をし、同行訪問や見守りにご協力いただいています。地域包括

支援センターの職員だけでは訪問を拒否される方でも、顔が繋がっている民生・児童委員の皆様と訪問することで、安心してドアを開け、支援を受け入れてくださることもあります。

地域から孤立している高齢者の中には、支援を必要としている方も多くおられます。あんしんネットワークを通じて、日常生活の中で、さりげなく様子をうかがい、穏やかな見守りを広げていくことが必要です。そして、町会・自治会を含めた関係機関との連携によって、横のつながりをつくり、地域の中に気づきの目を増やしていくことが大切だと感じています。

(地域包括支援センターさの 吉田美貴 記)

民生委員・児童委員宛

災害時一人も見逃さない運動



- ④被災地民生・児童委員からのメッセージです。
- * 発災直後3~4日は、民児協としての活動はできない。
 - * 全体が見える状況になるまでは、個々の判断で出来る範囲で出来ることをやれば良い。
 - * 民児協が動けるようになったら、都道府県民児協や近隣民児協とうまく連絡し、個々の民生・児童委員の精神面を含め、サポートしてほしい。
 - * 民生・児童委員活動の強みは、全国ネットワークであること。
 - * 近隣市町村はじめ県の民児協からの後方支援が、大きな力であった。
- ⑤最後に被災地からの教訓が列記され、提示されています。



- * 「民生・児童委員発災害時一人も見逃さない運動」を踏まえた「災害時要援護者支援活動の推進に関する方針」の趣旨徹底（沿岸部では、「津波てんでんこ」の周知）
- * 情報手段を失うことを想定した民生・児童委員の安否・居所確認方法
- * 発災直後の避難所や被災者支援

- 活動は、委員各自に任される部分が多いことを前提にした事前の役割分担
 - * 民生・児童委員の連絡・移動手段の確保（携帯電話番号登録、ガソリン確保など）
 - * 災害時要援護者台帳の整備と情報更新（行政、関係機関、防災組織などとの情報共有）
 - * 災害時に関係書類が保全できるような保管方法
 - * 発災後の行政、関係機関からの情報提供の仕組み（避難所、避難者名簿など）
 - * 要援護者が自宅、避難所、仮設住宅などに分散し、担当区域が分散消失した場合の対応方法
 - * 民児協定例会などの開催会場を失った場合の会場確保（民児協としての連絡方法、組織決定）
 - * 災害時の民生・児童委員活動への関係者の理解と共通認識
- おわりに……この「行動記録」は、あの被災体験者だからこそ記述し、言葉にできたのだと思います。災害大国日本に生活する私たちにとって、自分もいつか被災するかもしれません。この「行動記録」を、個人として民生委員として、自分の人生の参考資料としたものです。※シリーズ終了

(6地区 森春枝 記)

みんせいかわらばん 赤い羽根共同募金活動 本年度募金総額 1,311,694円

10月1日(火) 7:30~11:30

あいにくの雨でした。が、毎年、青井駅では、一つしかない地下の改札口正面で募金を行っております。お陰で濡れずに活動できました。朝の通勤ラッシュ時はみなさん急ぎ足ですが、私たちの声かけに、会釈を返して下さる方も多くおられます。

最初に私が持っている箱に募金して下さった方は、改札から出てきた一人の青年でした。「僕もお金はないの

だけど」と言いながら、募金してください。また、売店の店員さん、地下鉄の電気工事係の方、「都民の日」で、学校がお休みであったため、一緒に出かけるご家族・親子さんのグループ、若いサラリーマン・OLの方々と、老若男女、多くの方が募金してくださいました。

(東栗原地区 北村信也 記)



街かど福祉 その6 街のスーパーマン



「お宅の包丁、切れなくなった？」と声をかけてくれる人がいます。昔、会社の営繕で働いていたというOさんです。ある時は、車イスでひとり暮らしのお年寄りのためにと、使わなくなった板を我が家にもらいにきたこともあります。雨水をためて植木の水やり装置を作ってくれたり、こわれてしまった扉も、「まだ使えるから」ときれいに修復してくれました。大切な思い出の時計を修理のため店に出した時、「修理より新品を買われたら？」と断られてしまいました。その話を彼にしたら、その日のう

ちに時計が修理されて返ってきました。商品価値のない時計ですが、動いて欲しい時計だったので。うれしくなった私は、料理を作り、食べていただきたいと家に持って行きました。多分昔は、こんな風にお互いが助けあい生活をしていただいていたのではないかしらと思います。それぞれが出来ることをしてお互いが生かされ生活をするという。彼は、壊れそうな心も治してくれる、街のスーパーマンなのです。

(10地区 川島恵美子 記)



座談会 広報部会退任者に聞く 7月2日



今期（11/30）退任する部員を囲んで、江川部員の進行で座談会を開きました。

〈1〉 一番苦勞したことは？

川島 慣れない会計が大変でした。原稿を依頼する時に希望通りの内容を書いていただくことでした。

宮本 いろいろな方と出会えるチャンスを得て、有難い経験をさせてもらいました。

森 パソコン操作は、苦勞したが頑張りました。原稿集めと選択も大変。以前の号を時折読み返すと良いと思います。

渡邊 文章もパソコンも苦手。外部に原稿を依頼した方が、その周りの方々にも読んでもらえます。

北川 編集後記を書く時、経験がなく戸惑いました。後任はパソコンの得意な方を。

池田 途中から入ったので大変でした。皆さんに相談に乗っていただき続けられました。

阿部 9時半に来るのが大変でした。（笑）皆に会うのが楽しみで続けられました。

河邊 途中参加で戸惑いましたが、いろいろな方と知り会えたのが財産です。

〈2〉 今後に望むことは？

川島 ありきたりではなく血の通った文章を。鮮度が大事。常にアンテナを張ってほしいです。

宮本 素人っぽくて良い。民生・児童委員の手作りの広報紙を続けてほしい。

森 書き慣れることが大事。民生・児童委員信条に沿えば『さくら』のスタンスは変わらないと思います。

渡邊 とにかく誰かに原稿を書いてもらうこと。

北川 部員同士が和気あいあいと仲良く活動してほしい。

池田 誰が読んでも分かり易い文章で。

阿部 気楽に明るい雰囲気で行ってください。

河邊 全員が楽しく取り組んでほしいです。

各地区からの代表という自覚を持ちつつ、お互いをカバーし合えるような関係性を保ちながら、これからもより多くの方に読んでいただける広報紙を目指して行きたいと思います。

（4地区 江川明美

竹の塚地区 小島千恵子 口述筆記）



西新井第二小3年 宮城滉一

足立区立花保中学校

中学生俳句コーナー

夏休み 屋に見つけた	黄金虫
一年 中村 光太郎	
たいようが プールのなみに	ガガやくよ
一年 青柳 希怜	
秋近し 夕焼け空の	夏の海
一年 高木 遼我	
梅雨が来た	雷雨が降る降る
一年 菊田 優人	ガガない
太陽の 暑さに負けない	ガブと虫
一年 伊藤 大輝	
ひまわりは 太陽に向い	笑っている
一年 北口 すみれ	
夕立の あとにガガった	にじのはし
一年 青柳 希歩	

民生委員制度創設90周年記念事業スローガン

広げよう 地域に根ざした 思いやり



終末期医療 シリーズ2 緩和ケアとは…？



緩和ケアを受ける場所と専門職

今回は緩和ケアを受けられる場所と専門職についてご紹介します。

緩和ケアを受ける場所

- 1・病院 : 一般病院の緩和ケア病棟、ホスピス
院内の緩和ケアチームが患者さんとご家族の意向を尊重したケアを提供します。
- 2・介護施設等 : 介護保健施設、有料老人ホーム、サービス付高齢者住宅など

施設でも緩和ケアを行うところがあります。ここでは病院やクリニック等の協力医療機関と施設のスタッフ（介護職、看護職）でチームとなり、ケアを提供します。

- 3・在宅 : 自宅
自宅でも24時間対応が出来る往診医や訪問看護師、ケアマネージャー、ヘルパーなどがチームとなってケアを提供します。窓から見えるいつもの景色や、ご家族との時間を過ごせるといった環境は自分らしい生活を送ることができる場所と言えます。

緩和ケアを担う専門職

医療職では医師（身体担当、精神担当）、看護師、リハビリの療法士、栄養士、薬剤師、臨床心理士、カウンセラー等

福祉職では介護福祉士、社会福祉士、ケアマネージャー、ソーシャルワーカー、その他ボランティアの方や、信仰により牧師、神父、僧侶

「あなたはあなたのままで大切です。あなたの人生の最後の瞬間まで大切な人です。ですから、私たちはあなたが安らかに死を迎えられるだけでなく、最後まで生きられるように最善を尽くします。」

シシリー・ソンドース *

*イギリスの医師。ホスピス運動の誕生に当たって重要な役割を果たした。

医療法人社団福寿会在宅総合支援

センターふくろう 主任介護専門員
弓狩幸生 所長



足立区は活動記録提出100%継続中です

編集後記

今期、広報紙『さくら』創刊以来のメンバーである宮本広報部会長が卒業、他半数の部員が退任致します。これまでの並々ならぬ尽力には、頭の下がる思いです。

今後の広報紙を引き継ぐ我々は、この志を受け継

ぎ、質を落とすことなく、広報紙『さくら』を作り続けていかねばなりません。継続の力と新たなチームワーク、車の両輪のようにどちらも大事にしていることが必要と思います。

(9地区 秋本雅信 記)

〈訃報〉	第二合同 18地区	加茂 光男 (カモ ミツオ)	委員	逝去	
	第二合同 18地区	下嶋 良三 (シモジマ リョウゾウ)	委員	逝去	
	第四合同 7地区	森川 雅徳 (モリカワ マサノリ)	委員	逝去	
	第四合同 9地区	山下喜代司 (ヤマシタ キヨシ)	委員	逝去	ここに謹んで哀悼の意を表します

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。また、皆様の原稿を募集いたします（原稿は未発表のものに限ります）。次号発行予定日 3月1日
なお、原稿に関しては紙面の都合がございます 事前に地区広報委員にご相談下さい

広報部会

- 部会長 宮本勝男
- 副部会長 川島恵美子
- 書記 渡邊照美
- 会計 池田信江
- 編集 森川春枝
- 校正 秋本雅信
- 編集委員 藪下奈穂美
- 北村信也
- 鶴田晴久
- 木内信雄
- 加藤宏一
- 松島勝己
- 阿部美代子
- 千葉祐子
- 金子みどり
- 校正委員 江川明美
- 栗野昌子
- 河邊セツ
- 井上みよ子
- 梶宏次
- 鈴木静江
- 関根恵子
- 北川富美子
- 小島千恵子
- 栗原和子